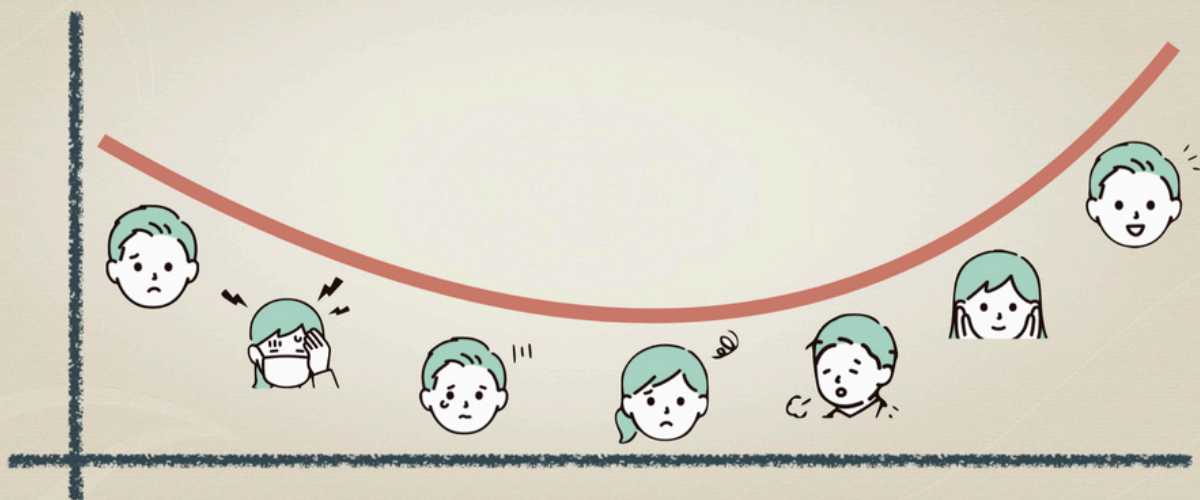


ゆりいか通信

第3号

令和6年7月

子どもの心のエネルギーステージ



心のエネルギー量を推し量る

今回は、不登校の子どもたちの心のエネルギー量についてご紹介したいと思います。

「不登校」とひとくくりに

に呼ばれていても、その子どもたちの心のエネルギー量は様々ではありません。ゆりいか研究会では、それぞれの段階について名前を付けています。

●【低調期】ぼちぼちさん
登校はしているものの、エネルギーが減っている状態。まだ不登校とは思われていません。

●【不調期】もやもやさん
体調不良による遅刻・早退が多くなっている状態です。医療機関を訪れても理由がよく分からないことがあります。

●【苦惱期】ゆらゆらさん
学校には行くつもりはあるものの、朝になると行けなくなるということを繰り返します。

●【葛藤期】ぐるぐるさん
部屋や布団から出てこない、など登校できない状態にあります。

●【放心期】ふわふわさん
悩み疲れたように脱力している状態です。

●【平穏期】ほっこりさん
登校を促さなければ落ちていく状態です。

●【変化期】うずうずさん
本人が生活に変化を求めようになります。

これらの段階は必ずしも明確に分かれていくわけではなく、登校の対応を考えると、子どもたちの心のエネルギー量を推測することは大切です。何もしていないように見えても、疲弊しきっている時期には頑張らせることは逆効果です。それぞれの段階にあっただけ対応をします。

Our Activities

ゆりいかルーム

一般オープン

ゆりいか研究会の拠点となっている上京区の町家、こりす西陣にて、当研究会のロゴ等も作成してくれているデザイン責任者前島小百合さんの個展が7月13日から21日まで開かれます。それに合わせて、ゆりいかの部屋を交流部屋として一般オープンします。ぜひお越しください。

いずれも入場無料です。
(ただし、フラッペで使用するため、一般オープンは20日まで)

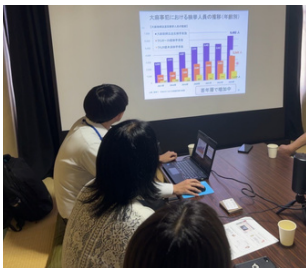


6月のフラッペ

【保護者のための薬物乱用防教室】

6月16日1時半から、第2回フラッペ勉強会を行いました。フラッペは、高校等の特別活動として生徒に伝えていく内容を保護者や若者にも届けようという企画です。

今回は、薬物乱用防止教室を行いました。京都府健康福祉部薬務課から竹内和也氏を講師に迎え、薬物の怖さや誘われた時の断り方など若者に伝えたいことを教えていただきました。また、昨今増えてきているオバードーズについてもお話ししていただき、常に知識をアップデートしていくか感じました。



ゆりいかパーソナル#

準備中

ゆりいか研究会では、学校現場での不登校理解を進めるために活動を行っています。この度お忙しい先生方を対象にオンライン勉強会を始めることにしました。

マンツーマンでの勉強会とすることで、関心のある所に絞って学びを深めていきます。また、その学びをもとにして、実際の不登校対応にもすぐに役立てていただけます。

関心のある方はぜひお声がけください。

フェルマータ

遠隔授業スペース準備中

学校に足が運ばない高校生が、学校以外でも授業を受けられるように遠隔授業受講スペースを準備しています。

高校での勤務経験のあるスタッフが同席することで授業出席扱いにもらうことを目指しています。

Thanks to

THE PEOPLE WHO WARMLY SUPPORT US

支援者の皆様（支援者一覧・順不同）

コジミニオンさま、多喜誠子さま、杉本さま他 クラウドファンディングおよびその他の形で
の寄付をしていただき、ありがとうございました。

なお、campfire community において、引き続きクラウドファンディングを
行っております。よろしければご覧ください。

<https://community.camp-fire.jp/projects/view/750361>

また直接の寄付も受け付けております。どうぞお声がけください。



今月のコラム

今月は、ゆりいか研究会のメンターボランティアによるコラムです。
こりす西陣のある西陣について書いていただきました。

西陣を歩く

西陣という地域の正確な規定はなく、東は堀川通り、西は千本通り、北は鞍馬口通り、南は一条通りに囲まれた区域であるというのが一般的であろう。応仁の乱で西軍が陣を敷いたのが地名の起こりで、西軍の大將山名宗全の邸は堀川今出川を北へ上がって西に入った所にあり、現在は石碑が立ち山名町という町名が残る。西陣があれば東陣もあり、東軍の大將細川勝元の邸は堀川上立売を東に入った所であった。その間は徒歩約五分の近さである。

足利幕府のある「花の御所」は室町今出川あたりにあり、歴史区分で「室町時代」と呼ばれる所以である。当時は東陣にあったと見る事ができよう。

東軍と西軍は堀川、または小川（現在の小川通り）を挟む地域を前線として激しく衝突を繰り返した。応仁の乱は十一年も続き、洛中洛外は言うに及ばず全国にも戦乱の被害をもたらせたが、その中枢は室町幕府を含めて歩いて回れるほどの狭い地域で争われた。

この地域には元々大陸から渡来人秦氏が居住し、養蚕と絹織物の技術

を伝えた。平安時代には高級織物を生産させる国営の織物業の工人が集まり織部町という町を形成していた。室町時代には大舎人座という同業組合を組織し、朝廷をはじめ公家や武家の需要ににこたえるほどに発展した。ところが応仁の乱により、多くの職工たちが戦禍から逃れるために洛外に避難し織物業は壊滅状態に陥る。乱が終わると職工たちが戻ってきて「西陣織」の町として復興をとげる。江戸時代中期にはひとときわ活況を得て、現在の大宮今出川界隈を「千両ヶ辻」と称して、織物問屋が一日に千両の生糸、織物を商った。明治大正時代には金融機関も立ち、西陣織は京都の代表的伝統産業として大いに発展してきたものの、着物離れが進み、今やかつての繁栄は見られなくなり、帯や着物ばかりではなく、ネクタイや小物にも高い西陣織の技術が継承されて行きつつある。昭和の時代にはあちらこちらで聴かれた機織りの音も、今ではほとんど聴かれなくなった。

西陣の歴史をしのびながら、ゆっくりと散策してみるのも趣深いものである。



金鶏鳥

宮美遊

幼少期 (二)

「雨が降ってきたんか？」
 藁打ちの手を止めて腰をのびしながら弥次郎爺様が聞いた。
 「今しがた、降ってきました」
 と長次は答えて、背中の信男を畳の所に下ろした。その声を台所で聞いていたオヒサが、手ぬぐいを持って出てきた。えんじ色の着物の上に白い割烹着(かっぱうぎ)が似合っていた。
 「おかえり。急な雨やったなあ」と言っ手ぬぐいを渡す。
 「ありがとうございます」
 と長次はにこやかに軽く頭をさげて、手ぬぐいを受け取った。その手ぬぐいで信男の顔や頭を優しく拭き、その後自分の顔や頭を拭いた。
 広い土間の隅では、いつも弥次郎爺様がコンコンと藁打ちをして草履(ぞうり)を作っていた。
 土間の奥には、五十センチ位の高さのところに四畳半の畳がある。その左手に続く座敷の正面に仏壇があり、その前では体の

弱いハナ婆様が床に伏せついていた。

信男は、常と変わらぬ二人の姿をみつけるとニッコリして「爺(じ)やんコンコン、婆(ば)やんネンネ」と舌足らずな片言で言った。

「ほんまやなあ。お爺様もお婆(ばあ)様もいて、ええなあー」
 オヒサが言うのと、弥次郎爺様が「かわいいのう」

と仕事の手を止め、目を細めた。弟が可愛くて仕方がない辰郎は、信男の所に駆け寄り体をギュツと抱きしめた。そして信男に「ウーン、可愛いー」と頬(ほお)ずりをした。信男はこそばゆそうにニコニコとしていた。ハナ婆様も、仏間の布団の中から兄弟の仲の良い様子を見て、嬉しそうにしていた。



挿絵：nepo

タイトル絵：落葉画廊

編集後記

学校現場に不登校理解を広めようと頑張っていますが、苦戦しています。現在活動費は寄付に頼る形になっており、寄付したいだけにいる方には深く感謝しています。なんとか頑張っていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
 (恩庄か)

おしらせ

★フラツペ
 原則毎月第3日曜日の午後を予定していますが、8月は第4日曜日になります。

★不登校でお困りの方、いつでもお話を伺います。研究会のお問い合わせフォームからお気軽にご連絡ください。

★連載小説「金鶏鳥」先読み配信開始しました。「宮美遊」で検索してください。